

平成 28 年度 第 1 回 東三河ビジョン協議会

日時 平成 28 年 7 月 29 日 (金)
午前 9 時 30 分～午前 11 時 30 分
場所 名豊ビル 8 階 ホール D・E

1 開会

2 あいさつ

3 委員紹介

4 議 題

- (1) 平成 24 年度策定主要プロジェクト推進プラン「～広域観光の推進～」の目標達成状況と主な取組結果について
- (2) 将来ビジョン及び主要プロジェクト推進プラン(平成 25・26 年度策定)の進捗状況について
- (3) 主要プロジェクト推進プラン(平成 28 年度「新東名インパクトを活かした地域振興～広域観光の新展開」)の骨子案について

5 その他

6 閉会

(配布資料)

- 資料 1 東三河振興ビジョン【主要プロジェクト推進プラン】～広域観光の推進～
目標達成状況と主な取組結果について
- 資料 2-1 東三河振興ビジョン(将来ビジョン)平成 27 年度の主な取組状況とさらなる推進について
- 資料 2-2 東三河振興ビジョン【主要プロジェクト推進プラン】
平成 27 年度の目標達成状況と主な取組の進捗状況について
「地域産業の革新展開」
- 資料 2-3 同上 「再生可能エネルギーの導入推進」
- 資料 2-4 同上 「スポーツ大会を活かした地域振興」
- 資料 2-5 同上 「地域連携事業の戦略展開」
- 資料 3 東三河振興ビジョン主要プロジェクト推進プラン「新東名インパクトを活かした地域振興～広域観光の新展開～」骨子案
- 参考資料 1 東三河振興ビジョンの概要
- 参考資料 2 東三河振興ビジョンの推進

東三河ビジョン協議会 委員等名簿

【委員】

区 分	所属・職	氏 名	備 考
市町村	豊橋市長	佐原 光一	
	豊川市長	山脇 実	
	蒲郡市長	稲葉 正吉	
	新城市長	穂積 亮次	
	田原市長	山下 政良	
	設楽町長	横山 光明	
	東栄町長	村上 孝治	
	豊根村長	伊藤 実	
広域連合	東三河広域連合長	佐原 光一	
民間 組織等	国立大学法人豊橋技術科学大学学長	大西 隆	代理 学長補佐 後藤 尚弘
	愛知大学学長・理事長	川井 伸一	代理 地域政策学部 学部長 新井野 洋一
	愛知県東三河広域観光協議会会長	佐藤 元英	
	豊橋農業協同組合代表理事組合長	白井 良始	欠席
	(一社)奥三河ビジョンフォーラム理事長	田村 幹洋	代理 研究員 清水 良文
	愛知大学地域政策学部教授	戸田 敏行	
	稲美会代表	藤井 智香子	
	東三河広域経済連合会会長(豊橋商工会議所会頭)	吉川 一弘	代理 事務局長 星野 君夫
愛知県	副知事	石原 君雄	座長
	東三河総局長	鳥居 保博	
	東三河総局新城設楽振興事務所長	田中 正剛	

(敬称略)

【オブザーバー】

所属・職	氏 名	備 考
愛知県議会議員	小林 功	欠席
	鈴木 孝昌	欠席
	峰野 修	欠席
	飛田 常年	
	山本 浩史	欠席
	藤原 宏樹	
	丹羽 洋章	欠席
	浅井 よしたか	欠席
	大嶽 理恵	
	渡会 克明	欠席
	下奥 奈歩	

(敬称略)

東三河振興ビジョン【主要プロジェクト推進プラン】
～広域観光の推進～

目標達成状況と主な取組結果について

(案)

平成 28 年 7 月
東三河ビジョン協議会

I 作成の趣旨

本資料は、平成 25 年 3 月に策定し、平成 27 年度で計画期間が終了した東三河振興ビジョン【主要プロジェクト推進プラン】～広域観光の推進～ に掲げられている目標の達成状況及び同プランの結果を東三河ビジョン協議会でとりまとめ、点検・公表するためにまとめたものです。

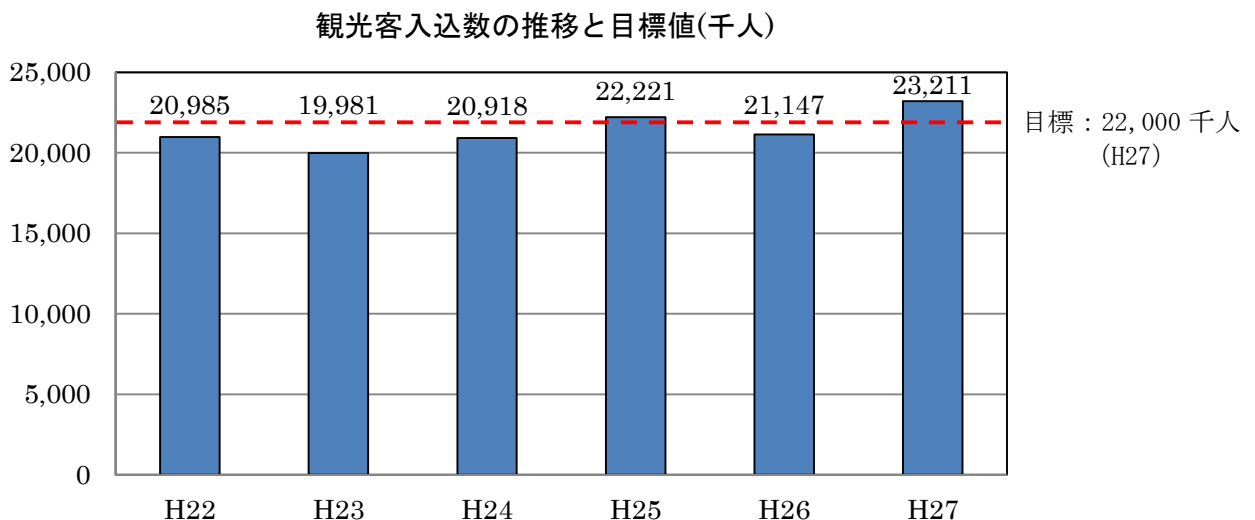
II 目標の達成状況

東三河振興ビジョン【主要プロジェクト推進プラン】～広域観光の推進～ に掲げる 3 つの目標の達成状況は、次表のとおりです。

項目	数値目標	計画当初	達成状況
目標 1 観光客入込数の増加	22,000 千人 (平成 27 年)	20,985 千人 (平成 22 年)	23,211 千人 (平成 27 年)
目標 2 宿泊者数の増加	2,000 千人 (平成 27 年)	1,706 千人 (平成 21 年)	1,999 千人 (平成 27 年)
目標 3 観光ボランティアガイド数の増加	180 人 (平成 28 年 1 月)	155 人 (平成 24 年 6 月)	158 人 (平成 28 年 1 月)

1 観光客入込数

- 観光客入込数については、平成 22 年から約 100 万人増加させ、平成 27 年には 2,200 万人とすることを目標としていました。
- 平成 25 年は「B-1 グランプリ in 豊川」が開催され、58 万人が来場したことで、目標を上回る 2,222 万人の入込を達成しましたが、単年度のイベントであったこともあり、平成 26 年は、平年並みの 2,115 万人にとどまりました。
- 平成 27 年は、道の駅「もっくる新城」のオープン、道の駅「豊根グリーンポート宮嶋」のリニューアルオープン等により 206 万人増加し、目標を達成しました。
- 平成 28 年 2 月 13 日に新東名愛知県区間が開通したことで、現東名を含め、渋滞が緩和し、観光客はこれまでよりも短時間で快適に東三河を訪れることが可能となったことから、観光客入込数は、今後さらに増加すると見込まれます。

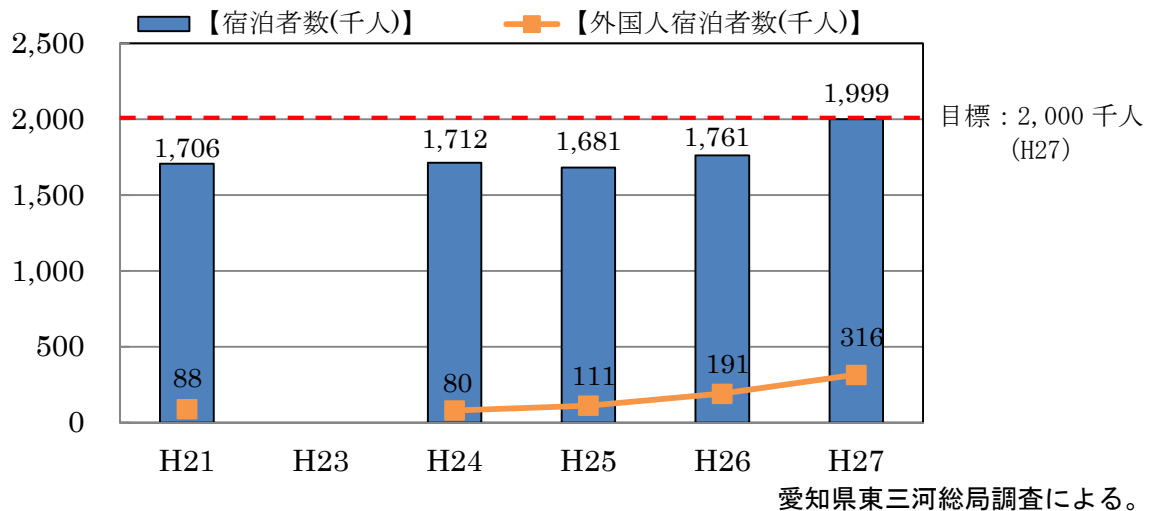


「愛知県観光レクリエーション利用者統計」より東三河分を抜粋。

2 宿泊者数

- 宿泊者数については、平成 21 年から約 30 万人増加させ、平成 27 年には 200 万人とすることを目標としていました。
- 平成 27 年の宿泊者数は、199 万 9 千人となり、目標を概ね達成しました。
- 計画期間中、外国人宿泊者が急激に増加したことが、最大の増加要因となっています。平成 24 年の 8 万人から平成 27 年は 31 万 6 千人と、3 年間で 4 倍近い伸びとなりました。日本人宿泊者も増加してはいるものの、平成 24 年から平成 27 年にかけての 3 年間で 3% の増にとどまっています。
- 東三河地域は主要な観光地のゴールデンルート上に位置していることから、特に、豊橋市、豊川市、蒲郡市の外国人宿泊者数が大幅に伸びています。

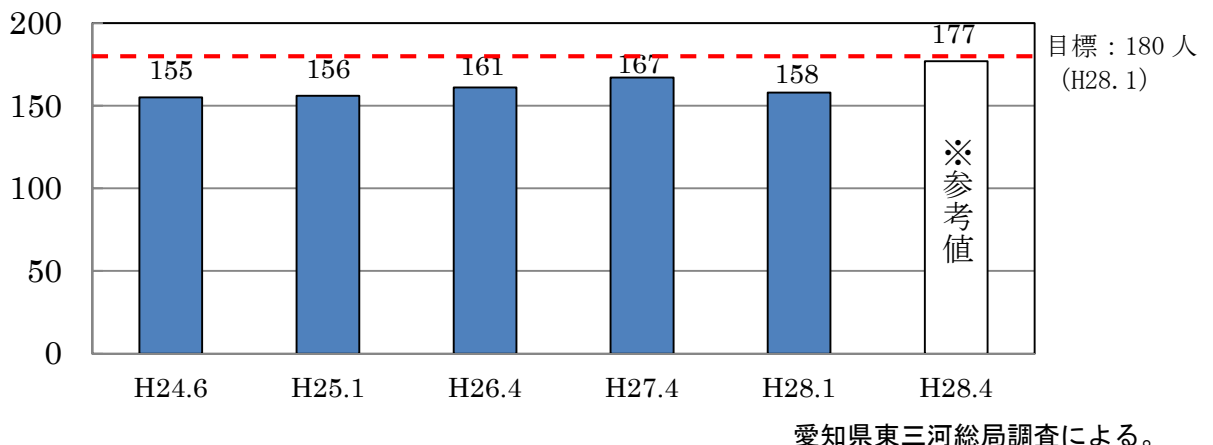
宿泊者数の推移と目標値(千人)



3 観光ボランティアガイド数

- 観光ボランティアガイド数については、平成 24 年 6 月時点から約 16% 増加させ、平成 28 年 1 月には 180 人とすることを目標としていました。
- 平成 28 年 1 月の観光ボランティアガイド数は、158 人となり、平成 24 年 6 月から 1.9% 増加しましたが、ピークとなった平成 27 年より減少し、目標達成には至りませんでした。
- 担い手の高齢化等により、活動を休止したり、引退された方が多かったことによると考えられますが、一方で、平成 28 年 4 月には新城市において「設楽原ボランティアガイドの会」（会員数 19 名）が新たに発足するなど、新たな動きも見られます。

観光ボランティアガイド数の推移と目標値(人)



Ⅲ 広域観光のさらなる推進に向けて

上述したとおり、平成24年度推進プラン「広域観光の推進」の数値目標のうち、東三河地域の観光客入込数と宿泊者数については目標を概ね達成しましたが、観光ボランティアガイドの数については、前年よりも減少し、目標達成できない結果となりました。

Ⅱで分析した結果と、東三河ビジョン協議会における取組状況を振り返ると、今後の広域観光の推進に向けて、次の課題が浮かんできます。

① 観光客数の増加を収益に結び付ける取組

観光の拠点となる道の駅等施設への来場者や、外国人宿泊者数は確実に増加しているので、これらの客がどこで何をしているのか、東三河で何がしたいのかなどの情報を把握し、滞在時間の増加、他のスポットへの誘導、客単価の適切な設定及び向上、リピーター増加等に向けた取組を検討する必要があります。

② 観光客をおもてなしするマンパワーやインフラの不足への対応

現地での観光客のおもてなしについては、観光ボランティアガイドをはじめ、様々な取組が活発に展開されているが、団塊の世代の方達を中心としたシニア世代への依存が高いため、マンパワーの確保が次第に困難になると予想される。今後は、観光案内所や道の駅などにおける案内業務の充実、学生など若い世代の参加に向けた働きかけなどに取り組んでいく必要がある。また、道路、駐車場、トイレ、Wi-Fi設備等、観光客が利用するインフラも不足しがちであり、既存のインフラの有効活用も含め、対応を考える必要がある。

新東名の開通を契機として、東三河地域への日帰り圏域の拡大をはじめ、インバウンドの増加など、入込客、宿泊者が増加していくことが見込まれます。こうした人たちの中から、着実にリピーターを増やし、安定した観光客数を確保していくためには、サービスの質に着目し、サービスの向上を客単価の上昇に結び付ける取組を根幹に据えて、新たなプランの策定を進める必要があります。

平成28年度に策定する新たな主要プロジェクト推進プランでは、新東名愛知県区間の開通効果を活用する観点を加えながら、「広域観光の推進」のさらなる重点化を図り、東三河の知名度・好感度の向上、交流人口の拡大等につなげていきます。

Ⅳ 主な取組の状況

- 別添主要プロジェクト推進プラン「広域観光の推進」取組一覧のとおり。

1 広域観光エリアとしての魅力の向上

(1) 多様な地域資源の磨き上げ

実施主体	取組の名称	取組概要	取組内容・成果		
			平成25年度	平成26年度	平成27年度
県・田原市	伊良湖公園施設整備費	自然公園内の伊良湖休暇村公園施設において、全国初となる、砂丘とオアシス(湧水)の再生をテーマとした公園整備。平成29年度完成をめざす。	整備開始	10/24 一部のエリアを供用開始。 10/25～10/26 リニューアルイベント開催 来場者1400人	【整備中】 9/12～11/8 全国都市緑化あいちフェアのサテライト会場として、期間中7300人が来場。 9/27「アウトドアフェスタ」開催 800人が来場
豊橋市	穂の国とよはし芸術劇場「プラット」開館	芸術文化の拠点施設として整備。東三河市民に広く利用されている。	H25.4.30に開館。 来館者数:186,792人(H25.4.30～H26.3.31現在)	来館者数: 191,694人(H26.4.1～H27.3.31現在)	来館者数: 221,274人(H27.4.1～H28.3.31現在)
田原市	蔵王山展望台等活性化計画策定業務	三河湾を一望できる蔵王山展望台の魅力を高めるためリニューアル。	基本計画、実施設計を平成25年度に策定。	H26.10 リニューアルオープン。 「田原市をめぐる多様なツアーの拠点施設」「再生可能エネルギーのシンボル施設」という2つの統一したテーマのもとに再構築。 来場者数: 53, 150人	来場者数: 189, 582人
新城市、設楽町、東栄町及び豊根村	「地域おこし協力隊」制度の活用	地域おこし協力隊による地域資源(人、物)の発掘や、人的ネットワークの構築。情報発信や商品開発による農業振興・観光振興のほか、都市部大学との域学連携、廃校を活用した事業提案等に従事。	設楽町で1名、東栄町で2名、豊根村で1名採用。地域情報収集と発信に従事。	新城市で3名、設楽町で3名、東栄町で5名、豊根村で2名採用。地域情報収集と発信に従事。	新城市で4名、設楽町で2名、東栄町で5名、豊根村で3名採用。地域情報収集と発信に従事。
設楽町商工会	STT48プロジェクト制度の活用	3町村(設楽町・東栄町・豊根村)の4つの商工会(設楽町商工会・津具商工会・東栄町商工会・豊根村商工会)が一体となり、奥三河地域のお特産品、観光商品を開発	活動内容は中日新聞やテレビなど各メディアに取り上げられ地域のPRとなっている。	観光施設などでの販売を強化。	観光施設などでの販売を強化。
蒲郡市みかわdeオンパク実行委員会	オンパク事業	三河地方の祭りや郷土料理、自然などを体験するイベント。平成24年度までは「オンパクin蒲郡」として開催していたイベントが、平成25年度からは開催地域を三河全域に広げ、広域的な事業として展開。	開催期間:H25.10.5(土)～11.10(日) 参加者数:7,509人	・開催期間:H26.10.1(水)～11.9(日) ・参加者数:8,557人 プログラム主催者として「GOGO 三河湾協議会」も加わり、エリアが拡大。	・開催期間:H27.10.3～12.27 ・参加者数:7,376人 ・95の体験プログラム
奥三河観光協議会	たあへんと体感奥三河	奥三河の各地で開催されている体感イベントの紹介。PRを行う。	139プランを紹介	奥三河観光協議会ホームページ「キラッと奥三河観光ナビ」への掲載開始	ラインナップしているプランの商品化(着地型旅行商品)の可能性について、28年度に奥三河DMO事業の中で、精査、磨き上げをしていくことを決定した。ホームページ上のアクセス数は、毎月約110件程度の実績。
あいちトリエンナーレ実行委員会	モバイル・トリエンナーレの開催	あいちトリエンナーレ2013において、主要会場だけでなく県内各地域で参加アーティストの巡回展示を行うことにより、より多くの人々に現代アートに触れてもらうことができた。	■豊橋市開催 開催会場:穂の国とよはし芸術劇場プラット、開催期間:H25.8.23(金)～25(日)、来場者数:2,232人 ■東栄町開催 開催会場:旧東部小学校開催期間:H25.9.27(金)～29(日)来場者数:372人	—	—
東三河広域経済連合会	自動車ブランディングプロジェクト	自動車企業を核として、東三河の観光地、宿泊地をネットワークした広域産業観光モデルコースを作成。製造ラインの見学、流通整備ラインの見学などのモニターツアーを検討。	検討	自動車産業のPRと三河港の観光拠点としての活用を合わせ、初となる三河港自動車産業観光ツアーを実施。三河港に集積する自動車産業に着目し企画。 ・開催日:平成26年11月24日(月・祝)	—
愛知県東三河広域観光協議会	産業観光への取組み	新たな産業観光事業の可能性に取り組むべく、産業界の動向に合わせて、全国有数の自動車輸出入港湾である三河港を背景にした誘致誘客の可能性を検討。	—	メルセデスベンツVPC新設に伴い、三河港振興事務局によるモニター助成制度の「日帰り観光クーポン」参加施設選定協力。毎月開催されるオーナー向けVPC視察ツアー参加者への東三河観光資料提供。民間旅行者(KN T)による募集バスツアーへの企画協力。フォルクスワーゲン豊橋本社視察ツアーへの東三河観光資料提供。	三河港振興事務局によるモニター助成制度の「日帰り観光クーポン」参加施設選定協力。毎月開催されるオーナー向けVPC視察ツアー参加者への東三河観光資料提供。民間旅行者(KN T)による募集バスツアーへの企画協力。フォルクスワーゲン豊橋本社視察ツアーへの東三河観光資料提供。

実施主体	取組の名称	取組概要	取組内容・成果		
			平成25年度	平成26年度	平成27年度
東三河広域経済連合会	健康な地域社会創造プロジェクト	40代～60代の余裕ある女性層をターゲットに同志社大学米井嘉一教授監修による、身体と心をリフレッシュし、日々の忙しさから脱出し、元気ではつらつとした自分に原点回帰するモニターツアーを検討。	検討	ラグーナテンボスにおいて、「健康『Design』探求の旅2014～know why & know how～」を開催。ランチエイジングドック等の17のプログラムを実施。ヘルスケア分野における新産業創出の展開を支援。 ・開催期間：平成26年10月9日(木)～10月12日(日)	—
豊根村	豊根村観光交流アクションプラン策定	○2020年までに観光交流人口100万人を目指した「豊根村観光交流アクションプラン」を策定。村の閑散期を無くし、観光客の滞在時間を長くするためのプランを取り入れ、具体的な方法などを検討。	—	平成26年12月策定。	【観光交流人口】72万3千人
豊川市	豊川市観光基本計画策定	B-1グランプリの開催によって全国的に広がった豊川市の知名度や豊川いなり寿司などの認知度の[向上を図りながら、観光によるまちづくりを軸とした新たな交流の拡大を目指して計画策定をすることとしました。	—	平成27年3月策定。	計画期間の初年度(32年度まで)の取り組みを実施。
豊橋市・蒲郡市・新城市・田原市	東三河各地でのジオツアー・企画展・シンポジウム等の展開	東三河各地で特色あるジオツアーを展開。ジオツアーを通じて、東三河の豊かな自然や優れた文化遺産にふれ、東三河ジオパーク構想の普及・啓発活動を推進。	【ジオツアー】 豊橋市 2回 蒲郡市 1回 新城市 3回 東栄町 1回 【シンポジウム・ワークショップ】 豊橋市 2回 【企画展】 豊橋市 2回 蒲郡市 1回	【ジオツアー】 豊橋市 4回 蒲郡市 2回 新城市 3回 【シンポジウム・ワークショップ】 豊橋市 1回 新城市 1回 【企画展】 豊橋市 1回 新城市 2回 田原市 1回	【ジオツアー】 愛知県 1回 蒲郡市 2回 新城市 3回 【シンポジウム・ワークショップ】 愛知県 1回 【企画展】 新城市 1回 【ジオガイド養成講座】 豊橋市 6回

(2) 広域観光エリアとしての周遊性の強化

実施主体	取組の名称	取組概要	取組内容・成果		
			平成25年度	平成26年度	平成27年度
豊橋観光コンベンション協会	東三河の「食」がさらに！ご当地グルメ再発見モニターツアー事業	名古屋駅発着の、東三河ご当地グルメと体験型の日帰りモニターツアーを実施し、尾張地域のみなさんに東三河地域の観光PRにつながった。 “奥三河の特産品「猪肉(シビエ)料理」体験と花祭り・志多ら太鼓の観賞”を始め蒲郡の「みかん狩り」、豊橋の特産品「次郎柿狩り」体験や、田原市の「キャベツ狩り」など5つのツアーを実施。	・参加者数：計303名	—	—
奥三河観光協議会	奥三河味のお辺路めぐり	奥三河の飲食店八十八ヶ所をめぐるご朱印を集めて商品をもらう企画をスタート。	実施期間：平成25年10月1日(火)～平成28年9月30日(金) 利用者数：604	【開催中】 利用者数：807	【開催中】 利用者数：854(結願者8名)
奥三河観光協議会	お得にいかまい奥三河パスポート	奥三河の観光施設・飲食店で割引を受けたりプレゼントがもらえるパスポートを発行。	味のお辺路めぐりの終了「26年9月30日」後の経済効果の上がる企画商品の造成の検討を始める。	2万部を26年12月に作成。27年3月までに1万5千部新東名各SAやもつる観光案内所で配布済。	実施期間：平成28年1月16日～平成29年12月26日 参加施設・店舗：45カ所 利用者数：集計不可能だが、各施設前年120%程度の入込。
西尾市観光協会	三河湾国定公園指定55周年記念「GO GO！三河湾」	“バス・船で巡る三河湾一周の旅(日帰り)春の花畑コース～伊良湖畔巡り～”を始め4つのツアーを実施。 ・事業協力：西尾市・蒲郡市・田原市・南知多町	—	実施期間：平成26年8月29日～平成27年3月24日 来場者数：1,990人	実施期間：平成27年10月18日～平成28年11月8日 来場者数：730人
県	スポーツ関連事業	新城ラリー開催支援	平成25年9月22日(日)に金山総合駅においてPRイベント開催。「秋びあ」(70,000部発行)や、「名古屋クオリティ」(50,000部発行)にPR記事を掲載。特集ページの抜き刷り10,000部をPRイベントや「道の駅」などで配布(新城市では、全戸回覧)。テレビやラジオ、コンビニでのポスター掲示など県の広報媒体を活用し、ラリーの情報発信を実施。メディアで大きく報道されることで、観戦者の裾野拡大や奥三河の魅力発信につながった。	平成26年8月24日(日)のザザンティ浜松(静岡県浜松市)を始め各地で開催(計6回)。大会PRパンフレット(20,000部発行)における見どころ及び観光スポット情報の発信や、「秋びあ」(70,000部発行)などでPRを行うとともに、ラジオや県の広報媒体を活用したラリーの情報を発信。また、大会会場での花男子ステージ及びチェンソーアートの実演・ブース出展などを実施し、幅広い層を対象に、観戦者の裾野拡大や奥三河の魅力発信。	平成27年9月12日(土)に豊田スタジアムにおける名古屋グランパスホームゲームイベントでPRイベントを開催。大会PRパンフレット(20,000部発行)における見どころ及び観光スポット情報の発信や、「秋びあ」、「大人の名古屋」、「びあ×starcats」などでPRを行うとともに、TVやラジオ、県の広報媒体を活用したラリーの情報を発信。また、地下鉄名古屋駅を始め3カ所に設置されているデジタルサイネージ(電子看板)でPR映像を放映。さらに、大会会場での花男子ステージ及び愛知の魅力をPRするブース出展などを実施し、幅広い層を対象に、観戦者の裾野拡大や奥三河の魅力発信。
		新規トレイルランニング大会の立ち上げ	コース案の作成など、新規トレイルランニング大会の立ち上げを支援。	茶臼山高原(豊根村)から湯谷温泉(新城市)までを走るトレイルランニングの大会を開催を決定。奥三河パワートレイルの立ち上げを行うとともに、練習会などを実施。さらに、県の広報媒体を活用した大会の情報発信も実施。 ・開催期間：平成27年4月11日(土)～4月12日(日)	○「第1回奥三河パワートレイル」では、エイドステーションにおいて、ランナーに地域特産品を提供するとともに、上位入賞者へ東栄町のチェンソーアートで作成したコノハズクのトロフィーを贈呈。 ○フィニッシュ会場で開催された「トレランEXPO」では、チェンソーアートの実演や花祭の実演などを実施するとともにブースを出展し、東三河地域の観光案内や、奥三河の特産品を販売。 ○平成28年4月に開催された第2回大会に向けて、テレビ番組やYoutubeなど広報媒体を活用した大会のPRを行うとともに、上位入賞者へ贈呈する東栄町のチェンソーアートによるトロフィーや、奥三河の木材を使用した走走メダルを作成。
ええじゃないか豊橋サイクルフェスティバル実行委員会	スポーツイベントによる地域活性化	○ 豊橋市神野埠頭で「第1回ええじゃないか豊橋サイクルフェスティバル」を開催。関東圏をはじめ地域内外から多くの参加者や観戦者が訪れた。	・開催期間：平成26年3月15日(土)、16日(日) ・来場者数：約2,500人(3月15日/800人、3月16日/1,700人)	のんほいパーク(豊橋市)で「第2回ええじゃないか豊橋サイクルフェスティバル」を開催。関東圏をはじめ、地域内外から多くの参加者や観戦者が来訪。 ・開催期間：平成27年3月11日(日) ・来場者数：約1,800人	のんほいパーク(豊橋市)で「第3回ええじゃないか豊橋サイクルフェスティバル」を開催。関東圏をはじめ、地域内外から多くの参加者や観戦者が来訪。 ・開催期間：平成28年3月6日(日) ・来場者数：約3,100人
新城市	新城ラリーの開催	○ 第10回記念大会として県営新城総合公園に会場を移して開催した。本年度から愛知県による支援が得られ、これまで以上に効果的な事前PR活動が行われた結果、日本全国から過去最高の観戦者が来場し、新城市をはじめとする周辺自治体の知名度の向上、及び経済効果が図られた。	・開催期間：平成25年10月25日(金)～27日(日) ・来場者数：約42,000人	○ 日本全国から過去最高の観戦者が来場し、新城総合公園にて開催。新城市をはじめとする周辺自治体の知名度の向上及び経済効果を発揮。 ・来場者数：約48,000人	平成25年度から県が開催を支援。メイン会場を県営新城総合公園とし、愛知県知事が大会名誉会長を務める。 ・主催：モンテカルロオートスポーツクラブ ・開催日：平成27年10月30日～11月1日 ・会場：県営新城総合公園(公園内にSS区間や観戦エリアを設置) ・来場者：51,000人
田原市	はしってみ輪漕美半島「サイクリングマップ」の活用	○ 漕美半島内のお勧めコースを紹介するサイクリングマップを作成し、利用者に配布。利用者に好評で、短期間で配布終了となり、サイクリングを利用した観光ツールとして効果が期待できる。	2013はしってみ輪漕美半島サイクリングマップ5,000部を配布。	2014はしってみ輪漕美半島サイクリングマップ7,000部を配布。	2015はしってみ輪漕美半島サイクリングマップ9,000部を配布。
県	観光スマートフォンアプリ「ほの国東三河 AR王国」の運用開始	○ 観光スポットや観光コースの案内を行う「ほの国東三河観光案内」の他、「花男子」とのコラボコンテンツ「AR花男子」、ご当地キャラクターが飛び出す「ほの国テーマパーク」など東三河の様々な観光地で楽しめる機能を付加し東三河への継続した来訪や周遊を促進。	・ダウンロード数：10,403件(平成25年6月6日～平成26年3月31日)	・ダウンロード数：5,544件(平成26年4月1日～平成27年3月31日)	・ダウンロード数：1,046件(平成27年4月1日～平成28年12月31日)

(3) 地域ブランドを構築し、広域観光エリアとしての一体感を醸成

実施主体	取組の名称	取組概要	取組内容・成果		
			平成25年度	平成26年度	平成27年度
愛知県東三河広域観光協議会	「ほの国」の普及定着の推進	○ 観光展・物産展に出展し、プロモーションに努めた。東三河が一体となり、地域内外の観光展・物産展に出展し、誘致誘客を促進した。	■「中部いいもの博覧会in豊川観光展」 ・開催期間：平成25年5月4日(土)、5日(日) ・来場者：30,000人 その他、「ほの国の観光と物産展」始め5つの観光展・物産展に出展	観光展・物産展に出展し、プロモーションを実施。東三河が一体となり、地域内外の観光展・物産展に出展し、「ほの国」の普及定着を推進。「ほの国東三河いいもの・うまいものフェア」ほか12の観光展・物産展に出展	観光展・物産展に出展し、プロモーションを実施。東三河が一体となり、地域内外の観光展・物産展に出展し、「ほの国」の普及定着を推進。東京ビッグサイトでの世界有数の観光イベント「ツーリズムEXPO」に出展、そのほか9つの観光展・物産展に出展
県	地産地消推進事業	○ 「愛知のふるさと食品コンテスト」の開催により県産農林水産物を利用した加工食品の新たな需要を掘り起こし、「地産地消・農工商連携ビジネスフェア」の開催により県産農林水産物を利用した商品の販路開拓を支援し、県産農林水産物の需要拡大を図ることができた。	■「愛知のふるさと食品コンテスト」 ・開催日：平成25年8月9日(金) ・場所：県食品工業技術センター(名古屋市西区) ・出品数：56食品 ・最優秀賞：豊橋うずら うずらたま5くん(豊橋養鶏農業協同組合)	■「愛知のふるさと食品コンテスト」 ・開催日：平成26年8月7日(木) ・場所：県食品工業技術センター(名古屋市西区) ・出品数：65商品 ・最優秀賞：豊橋うずら うずらたま5くん！！みそ味((資)野田味噌商店)	■「愛知のふるさと食品コンテスト」 ・開催日：平成27年8月6日(木) ・場所：愛知県産業技術研究所 食品工業技術センター ・出品数：61食品 ・最優秀賞：柿あん(榊石巻柿工房(地域資源である次郎柿を使用したセミドライ柿))
			■地産地消・農工商連携ビジネスフェア ・開催日：平成26年2月3日(月) ・場所：アイリス愛知(名古屋市中区) ・出展者数：82企業・団体(内東三河14企業・団体) ・参加者数：717名	—	—
県	6次産業化支援事業		—	■6次産業化・地産地消ビジネスフェア ・開催日：平成27年2月2日(月) ・場所：アイリス愛知(名古屋市中区) ・出展者数：72 企業・団体(内東三河12企業・団体) ・参加者数：506名	■6次産業化・地産地消ビジネスフェア ・開催日：平成28年2月2日(火) ・場所：アイリス愛知(名古屋市中区) ・出展者数：64企業・団体 ・参加者数：513名
県	食と緑あいちブランド創出事業	○ 都市農村交流に取り組む「茶臼の里組合」や豊橋茶の振興を目指すお茶の生産者に対し、有識者らが、地域資源を組み合わせ提案することや生産者の人柄も含めた情報を積極的に発信していくことの重要性についてアドバイスをを行った。	アドバイスを受けた取組主体が、それぞれ工夫を凝らして取組のアピールや販売促進活動等を行った結果、大手新聞社にイベントの様子や取組の内容が紹介され、PRにつながった。	—	—

2 広域観光エリアとしての魅力の発信

(1) 地域一体となったプロモーションの展開

実施主体	取組の名称	取組概要	取組内容・成果		
			平成25年度	平成26年度	平成27年度
豊橋市	産業プロモーション推進事業	○ 首都圏等において観光情報の発信や特産品等の販売を実施	観光資源のPRや特産品の販売により本市の認知度向上につながった。 実施回数：のべ37回	観光資源のPRや特産品の販売により本市の認知度向上につながった。 実施回数：のべ40回	観光資源のPRや特産品の販売により本市の認知度向上につながった。 実施回数：のべ25回
田原市	観光PRグループ結成	○ 平成25年田原市観光PRグループ「La花ノたみ」を結成。市内・東三河管内のイベントへの出演に加え、国内の様々なイベント、SNS等で田原市のPRを実施。	とくに若い世代への地域情報の発信力強化や知名度向上に繋がっている。 イベント出演回数：17回	とくに若い世代への地域情報の発信力強化や知名度向上に繋がっている。 イベント出演回数：43回	とくに若い世代への地域情報の発信力強化や知名度向上に繋がっている。 イベント出演回数：51回
県	三河の山里PR促進事業	○「きてみん！奥三河～Heart to Heart！～」を開催	茶臼山高原で開催し、奥三河の伝統文化等、芸術資源の認知度を上げるとともに、都市と山村との交流人口の拡大を図ることができた。 ・開催期間：平成25年9月14日(土)、15日(日) ・来場者数：約4,000人	東山植物園で開催し、奥三河の観光PR、奥三河物産展、花祭りの実演・交流会を開催。 ・開催期間：平成26年11月29日(土)、30日(日) ・来場者数：約30,000人	「三河山間地域誘客促進事業」の一環として、「きてみん！奥三河モニターツアー及びシャトルバス」を実施。名古屋発着で5月30日(土)東栄町の日本チェーンソーアート競技大会in東栄と5月31日(日)の新城市でのダイヤモンドレイル会場を回った。 また、5月31日に豊橋発着のシャトルバスを運行した。
		○「三河の山里ハーツ隊」企画・運営業務	県内各地及び浜松市で、「三河の山里ハーツ隊」が奥三河地域への誘客及び奥三河特産品の紹介をするPR活動を実施し、PR事業の特典を利用した周遊効果を上げることができた。	—	—
県	三河の山里観光・特産品の都市部でのPR促進事業	○ 三河山間地域の特産品の提供や観光資源のPR等を行うアンテナショップ「どくさん」を名古屋市内に設置し、特産品のブランディングや販路拡大及び観光PRを行った。	・開設期間：平成25年9月2日(月)～平成26年3月14日(金) 都市部と三河山間地域との交流が促進された。	H26以降は愛知県全体のアンテナショップ「ピピッとあいち」(中日ビル・ネットショップ)で展開。	
県	三河山間地域誘客促進事業	○テレビ・ラジオ番組、WEB、駅広告、雑誌など様々なメディアを通じ、三河山間地域の認知・好感度を上げるとともに、モニターバスツアーの実施など当該地域への移動手段を確保することにより、三河山間地域への訪問客数の増加を図る。	—	—	バスツアーの助成を行ったため、入込客数が増え、当該地域の市町村からは好評であった。 三河山間地域行きのバスツアー実績：運行台数延べ198台、参加人数延べ7,074人。既存公共交通網(バス路線・飯田線)を補完する観光ルートバスの運行実績：運行台数延べ100台、乗車人数延べ1,480人。民間バス借上げツアーに対する間接助成実績：運行台数延べ128台、参加人数延べ3,627人。 ※年間の地域全体への入込客数はまだ発表されていない。
豊川市	首都圏プロモーション活用事業	○ 首都圏等において観光情報の発信や特産品等のPR、販売(一部)を実施	—	—	事業数 5事業 延べ日数 13日

(2) 多様な情報発信媒体の活用促進

実施主体	取組の名称	取組概要	取組内容・成果		
			平成25年度	平成26年度	平成27年度
愛知県東三河広域観光協議会	公式ホームページの改修	○ より活用し易く改修し、一層の情報発信強化と充実を図った。	・アクセス件数： - 件(不明)	・アクセス件数：44,000 件(平成26年4月～平成27年3月)	・アクセス件数：161,000件(平成27年4月～平成28年3月)
県	穂つとネット東三河の活用	○ 東三河の観光情報をウェブページ及びフェイスブックを活用しPR。	・アクセス件数：1,055,595件(平成24年4月1日～平成26年5月31日)	ウェブページ及びフェイスブックを活用して、東三河の観光情報をPR。 ・アクセス件数506,171件(平成26年4月1日～平成27年3月31日)	・アクセス件数：886,415件(平成27年4月1日～平成28年3月31日)
県	観光スマートフォンアプリ「ほの国東三河 AR王国」の運用開始【再掲】	○ 観光スポットや観光コースの案内を行う「ほの国東三河観光案内」の他、「花男子」とのコラボコンテンツ「AR花男子」、ご当地キャラクターが飛び出す「ほの国テーマパーク」など東三河の様々な観光地で楽しめる機能を付加し東三河への継続した来訪や周遊を促進。	・ダウンロード数：10,403件(平成25年6月6日～平成26年3月31日)	・ダウンロード数：5,544件(平成26年4月1日～平成27年3月31日)	・ダウンロード数：1,046件(平成27年4月1日～平成28年12月31日)
県	花祭ガイドサイトの運用開始	○ 国の重要無形民俗文化財に指定されている「花祭」の流れや舞いの種類などを解説するサイトを作成。また、花祭会場に、本サイトのQRコードを掲載した花祭パンフレットやポスターの掲示をすることにより、観光客がスマートフォンやタブレット等で、その場で簡単にアクセスすることが可能となった。	今どのような舞が行われているか等瞬時にわかるなど、観光客の利便性が向上した。 ・アクセス件数：7,239件(平成25年4月～平成26年3月)	・アクセス件数：10,681件(平成26年4月～平成27年3月)	・アクセス件数：19,339件(平成27年4月～平成28年3月)
愛知県東三河広域観光協議会	ロケ誘致支援事業	「ほの国東三河ロケ応援団」は、東三河地域の豊かな自然や歴史・文化等の魅力あるロケ地の提供と、恵まれた立地特性を生かしロケ誘致を実施している。	TVドラマ「みんな！エスパーだよ！」や「LEADERSリーダーズ」等により、東三河地域の宣伝効果の向上や来訪者の増加をもたらした。	「ほの国東三河ロケ応援団」は、東三河地域の豊かな自然や歴史・文化等、恵まれた立地特性を活かし、TVドラマや映画のロケを誘致。TVドラマ「ルーズヴェルト・ゲーム」等により、東三河地域の地域振興や全国への情報発信などに効果を発揮。	豊川市出身の映画監督 園子温監督が、映画「みんな！エスパーだよ！」の舞台として豊橋市を設定。各地でロケが実施され、大きな話題となる。
田原市	観光プロモーション映像作成	○ 平成26年3月観光プロモーション映像「スマイルTAHARA」を作成。本年4月から三河田原駅での放映のほか、市ホームページ、動画投稿サイトへアップしPRを図っている。	・アクセス件数：371件	・アクセス件数：1081件(平成26年4月～平成27年3月)	・アクセス件数：493件(平成27年4月～平成28年3月)
豊川市	とよかわ観光アプリの運用	○ 観光スポットの紹介や周遊案内、店舗情報の紹介のほか、スタンプラリー、ご当地キャラとの写真撮影などの多機能により誘客や周遊を促す。			・ダウンロード数 459件(平成28年3月)

(3) イベント・コンベンションの誘致促進

実施主体	取組の名称	取組概要	取組内容・成果		
			平成25年度	平成26年度	平成27年度
B-1グランプリin豊川実行委員会	「第8回B-1グランプリin豊川」の開催	・大会名称:第8回ご当地グルメでまちおこしの祭典! B-1グランプリin豊川 ・開催日:H25.11.9(土)~H25.11.10(日)・会場:愛知県豊川市豊川稲荷周辺・豊川市野球場周辺 ・出演団体:ご当地グルメでまちおこし団体連絡協議会 本部加盟64団体(平成25年11月現在) ・主催:一般社団法人 ご当地グルメでまちおこし団体連絡協議会 B-1グランプリin豊川実行委員会	○来場者数:581,000人(11月9日/323,000人、11月10日/258,000人) ○経済波及効果:35億3277万円と推計(うち東三河地区への経済波及効果は20億9542万円(参考数値)と推計)	—	—
げんき商店街推進事業 B-1関連(1)商店街等が、地域住民・団体等と連携して実施するまちなか活性化事業	B-1グランプリin豊川の開催地である中心市街地で、B-1グランプリを契機にさらなる賑わいを呼び込むため、さまざまな事業を実施。	商店街の活性化が図られた。	—	—	
	げんき商店街推進事業 B-1関連(2)アーケード改修事業及びアーケードを活用したイベント	B-1グランプリin豊川開催に向け、老朽化したアーケードを魅力ある空間に再整備し、おもてなしの体制を整えた。	アーケード改修後は、商店街活性化事業を通じて、地元密着型の商店街であることを広くPRするとともに、商店街の来街者の増加が図られた。	—	—
	げんき商店街推進事業 B-1関連(3)B-1グランプリの知名度を活かして賑わいの創出を図る商店街イベント	賑わいあふれる商店街を創るため、9つの事業を実施。	それぞれの事業を「B-1グランプリin豊川」の大イベントを集客の絶好の機会と捉え、商店街等の更なる飛躍への足がかりとした。	—	—
愛知県東三河広域観光協議会	東三河広域観光B-1グランプリ支援事業 B-1関連	テレビ局主催イベントでの観光物産展開催。県内グルメを集めたイベントの開催。「ほの国」東三河をPRする観光展を併催した。	B-1グランプリの関連イベントを東三河8市町村合同で実施し、連携して東三河の魅力を全国に発信することができた。	—	—
		(1) 静岡県「とびっきり!あさひテレビ祭り2013」にて東三河への誘致誘客活動を実施。特に「B-1グランプリin豊川」のPRと前売り券の販売。	開催時期:H25.9.28(土)、29(日)来場者数:101,000人	—	—
		(2) ラグーナ蒲郡におけるグルメイベント「あいちを食べにおいでん祭」にて東三河と愛知県の地域グルメを中心に、「B-1グランプリin豊川」のPRと前売り券の販売。	開催時期:H25.10.5(土)、6(日)来場者数:20,000人	—	—
		(3) 自衛隊豊川駐屯地にて「東三河にまたおいでん祭」の併催。	来場者数:48,000人	—	—
豊川市	魅力発信とよかわ事業(緊急雇用創出事業基金事業) B-1関連	豊川市の魅力をPRするキャラバンを実施。「B-1グランプリin豊川」開催時の併催イベントを実施。	○隊員数:約9人 ○効果:全12回のPRキャラバン及び併催イベントを実施し、豊川市の魅力を効果的に発信することができた。 ○主な活動内容:県内外各地のイベントや商業施設において、全12回にわたってパンフレットの配布やご当地キャラを使って、豊川市の魅力を効果的に発信した。	—	—
豊川市観光協会	とよかわまちおこしフェスティバルいなりんピック開催	ご当地キャラ大運動会、豊川いなり寿司食べ比べ選手権、地産地消豊川いなり寿司コンテストを同時開催し、市内外より誘客を促し、とよかわ観光のPR及び地域活性化を図る。	—	平成27年3月14日(土)午前10時~午後4時 豊川市総合体育館及び体育館前広場 参加ご当地キャラ 64キャラ 来場者数約2万3千人	平成28年3月12日(土)午前10時~午後4時 豊川市総合体育館及び体育館前広場 参加ご当地キャラ 73キャラ 来場者数約2万8千人
県(観光コンベンション課 イベントコンベンションG)	愛知ご当地グルメ観光PR事業(緊急雇用創出事業基金事業) B-1関連	B-1グランプリの併催イベントとして、県内市町村のゆるキャラ、ご当地アイドル等によるステージイベントと観光資源のPRや地元特産品の即売等を行う観光・物産紹介ブースで構成する「魅力発信!あいちフェア」を開催するとともに、県内のご当地グルメを紹介した「あいちグルメガイド」を作成し、会場内で配布した。	相当数の来場者に本県のご当地グルメ及び観光資源をアピールし、回遊を促すことができた。 ステージイベント出演者数:18 団体ブース出展者数:32 団体来場者数:2日間 約48,000人	—	—
蒲郡商工会議所	「全国ご当地うどんサミット」	平成26年はラグーナテンボスで、平成27年は竹島埠頭で2年連続で「全国ご当地うどんサミット」を蒲郡にて開催。 全国ご当地うどんサミット2013in 東近江、全国まるごとうどんエキスポ2014in 秋田・湯沢にて1位を獲得した蒲郡の「ガマゴリうどん」出品。	—	・参加団体:24 店舗 ・来場者数:約20,000 人	初の2日間開催 ・参加団体: 28店舗 ・来場者数:約 41,000 人
新城市、愛知県東三河広域観光協議会	東三河(新城)FUN! FUN!サイクリングの開催	—	—	—	—

(4) 圏域を超えた広域連携の推進

実施主体	取組の名称	取組概要	取組内容・成果		
			平成25年度	平成26年度	平成27年度
愛知県東三河広域観光協議会	三遠南信・伊勢志摩広域観光交流連携協議会の活動推進	東京赤坂の「豊川稲荷東京」でのインバウンド商談会開催などによる、4圏域への観光客誘致とプロモーションの実施。	開催日：7月16日・17日 参加者数：17日39人・36人	開催日：6月25日 参加者数：52人	開催日：6月25日 参加者数：49人
豊橋商工会議所	伊勢・愛知県豊橋大交流祭「ええじゃないか豊橋行脚隊」	伊勢地域との交流事業として、伊勢神宮「外宮春納市」を始め伊勢各地において豊橋をPRし交流を図った。	開催日：H25.6.8(土)、9(日) 来場者数：13,000人	—	—
蒲郡市	岡崎・蒲郡インバウンド推進協議会事業	東アジア圏でも知名度の高い徳川家康公ゆかりの岡崎市と、アミューズメント施設や体験施設及び温泉を含めた宿泊施設が多数存在する蒲郡市が相互補完し、連携して観光情報を発信することによりゴールデンルートの新展開を目指す	中国本土の旅行者向けに発行する情報誌に両市の観光情報及び春節イベント紹介を掲載。あわせて春節イベント告知チラシを作成し、中国本土の旅行者を通じ、現地旅行者に情報発信を行った。春節時期の1/31～2/4の期間にゴールデンルートのコースにおいて両地域に約1,200名の立ち寄りが見られ、宿泊については、約600名であった。また、繁体字・簡体字向けDVDとパンフレットを作成し、両市の観光協会や観光施設に配布し、PRツールとして活用できるようになった。	観光庁が主催するデジタルジャパントラベルマート2014にて観光宣伝を実施し、旅行会社55社に両市の観光情報を発信した。 台湾プロガーを招請し、Facebookやブログにおいて多くの露出がなされた。FIT向けのフリーペーパー8P掲載し、国内3万、海外3万部を配布するとともに、フリーペーパーの8Pをパンフレットとして5,000部作成し、商談会や観光案内所で配布した。 英語・韓国語を1枚にしたDVDを作成し観光協会や観光施設に配布した。	観光庁が主催するデジタルジャパントラベルマート2014にて観光宣伝を実施し、旅行会社33社に両市の観光情報を発信した。 台湾・タイの旅行会社、プロガーを招請し、台湾においては旅行商品としての露出が図られ、タイにおいては、旅行会社やプロガーのFBにて多くの露出があった。 フリーペーパー2Pに掲載し、国内3万、海外3万部を配布するとともに、フリーペーパーの情報とともにマップをつけた4Pパンフを10,000部作成し、旅行博覧会や観光案内所で配布した
西尾市観光協会	三河湾国定公園指定55周年記念「GO GO! 三河湾」	“バス・船で巡る三河湾一周の旅(日帰り)春の花畑コース～伊良湖岬巡り～”を始め4つのツアーを実施。 ・事業協力：西尾市・蒲郡市・田原市・南知多町	—	実施期間：平成26年8月29日～平成27年3月24日 来場者数：1,990人	実施期間：平成27年10月18日～平成28年11月8日 来場者数：730人
蒲郡市みかわdeオンパク実行委員会	オンパク事業	三河地方の祭りや郷土料理、自然などを体験するイベント。平成24年度までは「オンパクin蒲郡」として開催していたイベントが、平成25年度からは開催地域を三河全域に広げ、広域的な事業として展開。	開催期間：H25.10.5(土)～11.10(日) 参加者数：7,509人	・開催期間：H26.10.1(水)～11.9(日) ・参加者数：8,557人 プログラム主催者として「GOGO 三河湾協議会」も加わり、エリアが拡大。	・開催期間：H27.10.3～12.27 ・参加者数：7,376人 ・95の体験プログラム
県・田原市	鳥羽伊良湖航路活性化協議会負担金	鳥羽伊良湖航路活性化総合連携計画に基づく利用促進事業等を実施。	鳥羽伊良湖航路の利用者数：513,998人。目標である総旅客人員年間35万人を達成した。	鳥羽伊良湖航路の利用者数：387,213人。目標である総旅客人員年間35万人を達成した。	鳥羽伊良湖航路の利用者数：379,210人。目標である総旅客人員年間35万人を達成した。
豊根村	「三遠南信 食の祭典in茶臼山」の開催	三遠南信地域で活躍する自治体が集結し「食」をテーマにしたイベントを開催することで、中山間地域の高速道路整備に対応した観光・文化情報を発信し、地域連携の強化や新しいライフスタイルの提案を推進する。	—	—	・参加団体：32団体 ・来場者数：約12,000人

(5) 海外からの誘客強化

実施主体	取組の名称	取組概要	取組内容・成果		
			平成25年度	平成26年度	平成27年度
県・愛知県東三河広域観光協議会	国際観光推進事業、東アジア観光客誘致促進事業、インバウンド誘致事業	< 県・愛知県東三河広域観光協議会 >	外国人宿泊者数：H24 79,244人→H25 111,564人(↑32,320人増加) アジア地域の外国人宿泊者数：H24 73,226人→H25 88,474人(↑15,248人増加) (※上記調査対象自治体：豊橋市、蒲郡市、田原市、新城市、豊根村)	○ 外国人宿泊者数：平成25年111,564人→平成26年165,557人(↑53,993人増加) アジア地域の外国人宿泊者数：H25年88,474人→平成26年153,877人(↑65,403人増加) (※上記調査対象自治体：豊橋市、蒲郡市、田原市、新城市、豊根村)	○ 外国人宿泊者数：平成26年165,557人→平成27年284,893人(↑119,336人増加) アジア地域の外国人宿泊者数：平成26年153,877人→平成27年266,182人(↑112,305人増加) (※上記調査対象自治体：豊橋市、蒲郡市、田原市、新城市、豊根村)

3 広域観光を推進する人・環境・基盤づくり

(1) 観光を支える人材の育成

実施主体	取組の名称	取組概要	取組内容・成果		
			平成25年度	平成26年度	平成27年度
豊川市	観光人材育成事業	B-1グランプリin豊川におけるボランティアの育成	延べ4,928人のボランティア・スタッフが活動した。また、B-1グランプリ開催に合わせて、ボランティアリーダーを育成し、当日はボランティアの中心となって活動した。	—	—
新城市	観光ガイドマニュアル及び観光データ作成事業 〔緊急雇用創出事業基金事業〕	本地域の代表的な観光資源を取り纏めた観光ガイドマニュアルと観光データベースを使用し、観光ボランティアガイド育成に向けた養成講座等を実施。	本地域の代表的な観光資源を取り纏めた観光ガイドマニュアルと観光データベースを使用し、観光ボランティアガイド育成に向けた養成講座等を実施。	ボランティアガイド育成と組織化についての検討を実施。	観光ガイドマニュアルを活用したボランティアガイド養成講座を2月に開催（受講者13名）
田原市	観光ボランティアガイド育成事業	観光ボランティアガイドセミナー（受講者28人）を開催。	ボランティアガイドの会の設立及び育成のための研修を実施。 受講者13名により平成26年4月観光ボランティアガイド組織「渥美半島観光ボランティアガイドの会」を設立。 今後、ボランティアガイドを活用したツアー造成などに期待できる。	ボランティアガイド育成のための研修を実施。 ボランティアガイド実績 日数6日、案内人数128人	ボランティアガイド実績 日数47日、案内人数1,245人
県	観光まちづくり推進事業	実際に「観光まちづくり」に取り組まれている県民を対象とし、県内他地域のゼミ生との交流機会を提供。	県内各地の「観光まちづくり」の底上げが図られた。 ○参加者数：55人	—	—
奥三河地域雇用創造協議会	実践型雇用創造事業	「観光」「農工商連携」を重点分野として、「おとなが楽しむ手軽な田舎」をコンセプトに、奥三河地域における雇用創造事業を実施（平成26～28年度）。	—	奥三河高原「グリーン・ツーリズム」セミナーや、奥三河高原「ソールフード」セミナー等を実施し、地域情報の収集・編集力、地域資源を活用したプログラム開発・企画力等を持つ人材を育成。	—
豊川市	観光まちづくりボランティア講座	おもてなしの心を活かして、観光による「まちおこし」や「まちづくり」に協力していただく人材の育成を目的として実施。	—	年5回、延べ115名が受講。市内観光地の視察や、グループワーク、ボランティア実習等を通じ、地域の観光資源を改めて知ることができ、観光まちづくりボランティア活動に対する意欲の向上を促進。	年5回、延べ118名が受講。市内観光地の視察や、グループワーク、ボランティア実習等を通じ、地域の観光資源を改めて知ることができ、観光まちづくりボランティア活動に対する意欲の向上を促進。

(2) 美しい景観づくりの推進

実施主体	取組の名称	取組概要	取組内容・成果		
			平成25年度	平成26年度	平成27年度
県	違反屋外広告物の適正化事業	屋外広告物の適正化について、県及び東三河の5市の間で意見交換会を開催するとともに、違反屋外広告物に関する予備調査及び適正化に取り組む重点地区の検討を行った。	予備調査を実施した市においては、屋外広告物について大まかではあるが実態が把握できた。あわせて意見交換会や各市において重点地区の検討を進める中で、県及び市の担当者の屋外広告物に対する意識の向上が図られた。	屋外広告物の適正化について、県及び東三河の8市町村の間で年間5回にわたり会議を開催し、情報共有や適正化の取組みについて検討。 その結果、重点的に取り組む内容として「はり紙や広告旗などの簡易除却」及び「屋外広告物を設置するときの基本的なルールに関する普及啓発活動」を推進することとなり、8市町村で簡易除却を行うとともに、田原市において普及啓発活動を実施。	屋外広告物の適正化について、県及び東三河8市町村の間で2回会議を開催し、情報共有や適正化の取組みについて検討。 その会議の中で、簡易除却及び普及啓発を重点的に取り組むこととなった。7市町村で簡易除却を行うとともに、5市町で普及啓発活動を行った。

(3) 広域観光を支える観光基盤・施設の整備推進

実施主体	取組の名称	取組概要	取組内容・成果		
			平成25年度	平成26年度	平成27年度
新城市	道の駅「もつくる新城」整備事業	新東名の新城IC(仮称)出入り口交差点横に、「奥三河観光ハブステーション」を基本コンセプトとした道の駅「もつくる新城」を建設。	—	平成27年3月21日、新東名の新城IC(仮称)出入り口交差点横に、「奥三河観光ハブステーション」を基本コンセプトとした道の駅「もつくる新城」がオープン。	来館者数：1,393,710人(H27.4.1～H28.3.31現在)
田原市	田原駅周辺整備事業	H25.10 三河田原駅舎(豊橋鉄道線)・田原市交流ひろば、駅前広場(一部)、都市計画道路田原駅前通り線(萱町交差点・一本橋間L=330m)供用開始。駅前広場残部分：早期共用に向けて整備中	10月供用開始	—	—
県・田原市	伊良湖港周辺整備事業	平成26年4月伊良湖港緑地を供用開始。	平成26年度緑地(便益施設)、臨港道路植栽を予定。	—	—
設楽町	道の駅清嶺(仮称)の整備	歴史民俗資料館(仮称)と併設する形で平成30年度末の完成をめざす。	—	基本構想策定、敷地造成	基本設計(～H28.7)
豊根村	道の駅整備事業	地域住民からも愛される新たな観光交流拠点を整備コンセプトに現在の道の駅「豊根グリーンポート宮嶋」の建て替えを行った。	—	地域住民からも愛される新たな観光交流拠点を整備コンセプトに「豊根グリーンポート宮嶋」の建て替えを実施。平成27年4月18日にリニューアルオープン。	来館者数：約157,000人(H27.4.18～H28.3.31現在)
蒲郡市	観光交流センター「ナビテラス」管理運営事業	JR蒲郡駅改札口を出て正面のところにあり、観光交流立市の拠点施設、観光交流センター「ナビテラス」において、観光客への観光案内業務や観光情報の提供をする。また、展示スペースもあり、市民と観光客の交流の場として活用するための管理業務を行っている。	以前の観光案内施設に比べ、利用者が約5倍に増えた。さまざまな催事を実施し、多くの人々が訪れた。また、市民の会議室利用や、駅利用者の待合など、観光客以外にも使用され、観光客と市民双方が集まる場所となっている。来館者数：45,095人(オープンH25.3.17～1年間)	来館者数：48,444人(H26.4.1～H27.3.31現在)	来館者数：40,450人(H27.4.1～H28.3.31現在)
県・市町村・経済団体	国への働きかけ	新東名高速道路、三遠南信自動車道、名豊道路、浜松三ヶ日・豊橋道路	三遠南信自動車道、名豊道路の未開通区間の早期整備や、浜松三ヶ日・豊橋道路の早期実現等を地域が一体となって国に働きかけるなど、広域的な幹線道路網の整備を促す取組を推進。 三遠南信自動車道 H25.6.12 国土交通省要望 H25.6.20 中部地方整備局要望 H25.12.12 国土交通省要望 H25.12.17 中部地方整備局要望 浜松三ヶ日・豊橋道路 H25.7.11 中部地方整備局要望 H25.7.31 浜松三ヶ日・豊橋道路促進期成同盟会が初の国土交通省本省要望。 H25.11.14 国土交通省要望 名豊道路 ・名豊道路建設推進協議会 H25.7.11 中部地方整備局要望 ・国土交通省要望 ・国道23号蒲郡バイパス建設促進協議会 ・H25.8.7 中部地方整備局要望	三遠南信自動車道、名豊道路の未開通区間の早期整備や、浜松三ヶ日・豊橋道路の早期実現等を地域が一体となって国に働きかけるなど、広域的な幹線道路網の整備を促す取組を推進。 三遠南信自動車道 H26.6.23 国土交通省、財務省要望 H26.6.24 中部地方整備局要望 H26.11.17 国土交通省、財務省要望 H26.12.15 中部地方整備局要望 浜松三ヶ日・豊橋道路 H26.8.11 中部地方整備局要望 H26.8.27 浜松三ヶ日・豊橋道路促進期成同盟会が田原市の田原臨海企業懇話会(会長＝山田俊郎愛知海運産業社長)、豊橋市の三河湾明海地区産業基地運営自治会(会長＝川西正克川西塗装社長)とともに本省要望。(企業との連携は初) H26.11.12 国土交通省要望 名豊道路 ・名豊道路建設推進協議会 H26.8.6 国土交通省要望 H26.8.11 中部地方整備局要望 H26.12.16 国土交通省要望(西三河のものづくりを支える名豊道路整備に関する要望) ・国道23号蒲郡バイパス建設促進協議会 ・H25.8.7 中部地方整備局要望	三遠南信自動車道、名豊道路の未開通区間の早期整備や、浜松三ヶ日・豊橋道路の早期実現等を地域が一体となって国に働きかけるなど、広域的な幹線道路網の整備を促す取組を推進。 三遠南信自動車道 H27.6.23 国土交通省、財務省要望 H27.6.24 中部地方整備局要望 H27.11.17 国土交通省要望 H27.12.11 中部地方整備局要望 浜松三ヶ日・豊橋道路 H27.7.2 中部地方整備局要望 H27.7.15 国土交通省、財務省要望 名豊道路 ・名豊道路建設推進協議会 H27.7.2 中部地方整備局要望 H27.7.30 国土交通省、財務省要望 ・国道23号蒲郡バイパス建設促進協議会 ・H27.7.13 中部地方整備局要望
県	道路整備事業	東三河縦貫道路、北設井桁幹線道	—	・平成26年9月12日、北設井桁幹線道の一つである、一般国道420号(豊邦拡幅)L=3.8kmのうち、一部区間L=0.3kmを供用。 ・平成27年3月17日、東三河縦貫道の一つである、主要地方道長篠東栄線(海老バイパス)L=2.0kmのうち、一部区間L=0.4kmを供用。	平成27年6月6日、北設井桁幹線道の一つである、一般国道473号設楽バイパス(L=約3.1km)が開通。現在事業中の三遠南信自動車道へのアクセス性の向上に期待。
新城市	観光二次交通検討事業	10月にモデル事業として湯谷温泉を起点とした「秋の鳳来峡を巡る自転車散歩」を企画。(当日天候不良にて中止)	近隣自治体から三重県、兵庫県まで23名の参加申し込みがあった。湯谷温泉駅を中心としたレンタサイクルの実用化に向けて、今後とも検討を図る。	—	湯谷温泉駅内観光案内所でレンタサイクル事業を実施 「秋の鳳来峡を巡る自転車散歩」を11月26日に開催。
県・田原市	鳥羽伊良湖航路活性化協議会負担金(再掲)	鳥羽伊良湖航路活性化総合連携計画に基づく利用促進事業等を実施。	鳥羽伊良湖航路の利用者数：513,998人。目標である総旅客人員年間35万人を達成した。	鳥羽伊良湖航路の利用者数：387,213人。目標である総旅客人員年間35万人を達成した。	鳥羽伊良湖航路の利用者数：379,210人。目標である総旅客人員年間35万人を達成した。
豊川市	Toyokawa City Wi-Fiの整備事業	市内7箇所に誰でも無料で利用できる公衆無線LANを整備し、観光振興及び地域活性化を図る。また、NTT西日本と包括協定を結び、Toyokawa City Wi-Fiの提供エリアの拡大を図ることで、更なる観光誘客を促す。	—	—	・アクセス数 765件(平成28年3月)